

## 中・朝貿易から見た朝鮮経済

小 川 雄 平

(西南学院大学商学部)

### 1. はじめに

朝鮮民主主義人民共和国（以下、朝鮮と略記）が経済不振と食糧危機にあることは、周知の通りである。硬直した経済システムに、旧ソ連・東欧の体制崩壊による原油・生産財の供給途絶が加わり、韓国銀行の推計によれば、実質経済成長率は90年-3.7%、91年-5.2%、92年-7.6%、93年-4.3%、94年-1.7%、95年-4.6%と、6年連続のマイナス成長が続いている。

もちろん、朝鮮はこれまで何もせずただ手をこまねいていたわけではない。91年末には、中国の経済特区に倣って、ロシア沿海地方・中国吉林省と国境を接する咸鏡北道の羅津・先鋒地区に「自由経済貿易地帯」を設定し、同時に咸鏡北道の道都で直轄市でもある清津市の清津港を「国際自由港」にして外資の導入を図ろうとした。地域を限定してではあるが、対外開放の意志を表明したのである。その後、「自由経済貿易地帯」は、「外国人投資法」・「外国人企業法」・「合作法」・「(改訂) 合弁法」・「自由経済貿易地帯法」など外国人投資関連の法規を整備するとともに、開放面積も621km<sup>2</sup>から746km<sup>2</sup>に拡張し、周囲に鉄条網も設置して、96年7月からはビザ無し訪問も可能になった。95年9月から羅津港と韓国釜山港との間に、週1便の定期コンテナ航路も開通した。しかし、頼りとする外資は、これまでに49件・3億5000万ドルの投資契約が締結されたものの、実際に履行されたのは22件・3400万ドルに過ぎない<sup>(1)</sup>。インフラ整備の遅れもさることながら、対内改革が連動しないような開放では、対外信用を得られないということであろう。

朝鮮にとってさらに悪いことは、95年7月下旬からの未曾有の集中豪雨が8月初めには大洪水を引き起こし、収穫前の農作物に壊滅的な打撃を与えたことである。炭坑浸水による原料炭不足から生産活動も大きな影響を被ったと思われる。洪水の被害状況について朝鮮は、平安南北道・江原道・慈江道を中心に全国9道・4直轄市の145の郡が浸水、520万人以上が被災し、被害総額は150億ドルと発表している<sup>(2)</sup>。これは、115億ドルと推計される対外債務総額を凌駕し、95年の名目GNP223億ドルの67.3%にも達する<sup>(3)</sup>。この通りだとすれば、被害はきわめて甚大であったことになる。事実、94年から増え始めた亡命者が96年には急増しているし、亡命の動機も政治的なものから生活難・食糧難に変わってきているようである。

大量の難民の到来が予想される周辺地域では、朝鮮の食糧危機の帰趨は一大関心事である。米国のランド研究所・ニクソン平和自由センター・ハーバード大学科学国際関係センターは共同研究の結果、朝鮮は96年中に経済・社会・政権の三重の危機から崩壊する可能性があると警告している<sup>(4)</sup>。この見解に代表されるように、米国は危機感を高め、朝鮮の崩壊を食い止めるための本格的な援助を検討しているようである。これに対して、韓国や日本は難民が発生するほどではないと認識しているようで、同族や隣国を本格的に援助しようという姿勢は見られない。国連の総

## 2 中・朝貿易から見た朝鮮経済

額4360万ドルの緊急国際支援要請に対しても、日本は米国より20万ドル少ない600万ドル、韓国は300万ドルを負担するに過ぎず、国連の期待を裏切っているといわれている。

現実には、朝鮮の状況はどうなのであろうか。朝鮮はまとまった統計数字を公表していないし、断片的に発表する数値も宣伝色が強く客観的でないとすれば、朝鮮経済の実態に迫ることは極めて困難である。次善の策として、中国との経済関係から朝鮮の経済実態に接近することにしよう。

### 2. 最近の中朝貿易動向

旧ソ連・東欧諸国が体制崩壊して以来、朝鮮は、国境を接し、原油・原料炭等のエネルギー資源や食糧・消費財の調達が可能である中国への依存を強めていかざるを得なくなった。ちなみに、日本貿易振興会の推計値によれば、91年の朝鮮の貿易に占める旧ソ連の比重13.9%に対して、中国の比重は25.0%で最大である。朝鮮の輸入相手先では、旧ソ連の比重11.9%に対して、中国はほぼ3倍の35.6%にもなる。以降も、輸入相手先としての中国の重要性は高まり、92年のシェア34.0%、93年のシェア37.4%である。輸出相手先としても中国は最大で、93年のシェア27.7%である<sup>(5)</sup>。

朝鮮にとって中国は長い国境を接する友好国であり、上の数字に表れている以上に密接な経済関係を持っている。国境地域では「国境（国境）貿易」と称する取引が行われ、ヒトとモノの頻繁な往来がある。後で見るように、この国境貿易を通じて、中国は朝鮮に便宜を図っているし、要請があれば豚肉や穀物の援助にも応じている。そうして、何よりも重要なことは、朝鮮側の年々の貿易赤字（それは慢性的・構造的なものである）が事実上援助として不問にされてきたことである。もっとも中国は、92年から、政府間協定貿易に限って「国際市場価格による外貨決済」を要求するようになり、後で見るように、バーター取引の可能な国境貿易が急増するのであるが、それはさておき、中国の貿易統計から中国と朝鮮の貿易の推移を見てみよう。

表1 中朝貿易の推移

単位：万ドル

	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年
中国 → 朝鮮	35,816	52,478	54,111	60,234	42,452	48,619
朝鮮 → 中国	12,458	8,567	15,546	29,729	19,922	6,361
貿易総額	48,274	61,045	69,657	89,963	62,374	54,979
朝鮮の収支	-23,358	-43,911	-38,565	-30,505	-22,530	-42,258

出所：『中国海関統計年鑑』各年版より作成。

表1によれば、朝鮮は90年から93年までは順調に貿易規模を拡大している。収支は一貫して朝鮮側の赤字であるが、輸出の伸びが著しく、93年には輸出が輸入のほぼ半分を占めるまでになっている。ところが、94年以降は、一転して貿易規模が縮小する。94年は93年の3分の2の規模に激減している。95年も引き続き11.8%の減少である。取引の縮小は、とりわけ朝鮮の輸出の不振に起因しているようである。94年の輸出は前年比33.0%の減少、95年は実に68.0%の減少である。

これはどうしてであろうか。貿易統計をいまだ少し詳細に見てみよう。

最近の中国の貿易統計から朝鮮との品目別輸出入構成を抜き出したものが表2である。貿易統計から、94年及び95年の取引不振の要因を探ってみよう。

表2 最近の中朝貿易

単位：万ドル

	中 国 → 朝 鮮			朝 鮮 → 中 国			
	1993年	1994年	1995年		1993年	1994年	1995年
穀 物	9,768	2,866	655	魚 類	1,151	1,453	1,079
鉱物性燃料	23,786	17,646	20,735	鉱石・鉱滓	1,252	695	736
人造短繊維	523	1,078	1,610	木 材	734	633	419
機 械 機 器	1,046	1,117	1,290	肥 料	280	125	372
電 気 機 器	1,842	1,472	3,324	鉄 鋼	20,771	12,664	1,934
その他共計	60,235	42,452	48,619	その他共計	29,729	19,922	6,361

出所：『中国海関統計』93年12月、94年12月、95年12月より作成。

先ず、朝鮮の輸出から見てみよう。表中の5品目は対中輸出品目の上位5位までの品目である。先ず気付くことは、これら5品目のシェアが93年の81.4%から、78.2%（94年）、71.4%（95年）と、減少していることである。個々の品目についても、魚類を除けば、鉄鋼、木材、肥料、鉱石・鉱滓ともに、94年の対中輸出は減少している。木材・鉄鋼は95年も引き続き減少である。とりわけ最大の輸出品目である鉄鋼の不振は顕著である。93年には輸出のほぼ7割を占め、文字通り輸出の中心であったが、94年63.6%、95年は30.4%にまでシェアを落としてしまっている。朝鮮の鉄鋼部門は、設備の老朽化に加えて、原料炭・コークスの不足や電力不足もあり、稼働率30%に過ぎないといわれているが、こうした生産不振が遂に輸出にまで影響するに至ったのである<sup>(6)</sup>。95年の著しい落ち込みは集中豪雨の影響であろう。表3にも示されているように、8月以降の落ち込みが顕著である。洪水で生産設備が損傷を受けた可能性や炭坑浸水による原料炭の供給不足

表3 集中豪雨禍（1995年8月上旬）と中朝貿易

単位：万ドル

	中 国 → 朝 鮮			朝 鮮 → 中 国			
	95.1-7	95.8-12	1995年計		95.1-7	95.8-12	1995年計
穀 物	631	24	655	魚 類	653	426	1,079
鉱物性燃料	11,617	9,118	20,735	鉱石・鉱滓	413	323	736
人造短繊維	969	641	1,610	木 材	269	150	419
機 械 機 器	730	560	1,290	肥 料	257	115	372
電 気 機 器	1,981	1,343	3,324	鉄 鋼	1,392	542	1,934
その他共計	28,329	20,290	48,619	その他共計	4,125	2,236	6,361

出所：『中国海関統計』95年7月及び12月より作成。

#### 4 中・朝貿易から見た朝鮮経済

が考えられる。鉄鋼がこのような状況であれば、鉄鋼の供給に大きく依存する機械設備・輸送機器・建設といった諸部門の稼働率低下も必至である。

鉄鋼ほどではないにしても、木材も肥料も95年8月の洪水によって生産活動に影響があったと思われる。肥料は輸出が中断していたが、11月になってようやく再開されるに至った。朝鮮では、化学肥料は石炭のガス化によるアンモニア合成法で生産されている<sup>(7)</sup>。石炭化学部門も稼働率が極端に低下しているのであろう。木材は7月の57万ドルに対して8月15万ドル、9月14万ドルと激減した。これは、水害による伝染病の蔓延をおそれたロシア政府が国境を閉鎖したことと関係がある<sup>(8)</sup>。というのは、中国に輸出される木材の大半が、林業協定に基づくロシアからの現物支給品であるため、国境を閉鎖されるとロシアからの木材供給が中断されてしまうからである<sup>(9)</sup>。木材の輸出はその後、10月22万ドル、11月34万ドルと回復の兆しを見せ、12月には64万ドルと、通常の輸出額に戻っている。

さて、表2に戻って、次に朝鮮の輸入動向を見てみよう。94年に輸入も急減している。品目としては、穀物と鉱物性燃料の減少が著しい。鉱物性燃料とは、いうまでもなく原油や原料炭・コークスである。93年の2億3800万ドルから94年は1億7600万ドルへ、26%の減少である。これは原料炭の輸入減（102万トンから91万トンに減少）と原油価格の低下によるものである。原油は104万トンから105万トンに微増であるが、金額は逆に1億3400万ドルから1億2170万ドルに低下している<sup>(10)</sup>。95年は鉱物性燃料の輸入が2億ドル台まで回復している。穀物を除けば、人造短繊維・機械機器・電気機器ともに93年の輸入額を凌駕している。

穀物の落ち込みは著しい。93年の9800万ドルから94年の2900万ドルへ、3分の1以下にまで激減している。95年にはさらに激減して655万ドルとなり、94年の4分の1以下、93年の実に15分の1に過ぎなくなってしまっている。それだけではない。95年の655万ドルのうち96%に当たる631万ドルは7月までに輸入されており、集中豪雨禍以降は僅かに24万ドルが輸入されたに過ぎない。水害で穀物の必要な朝鮮が輸入量を減らすはずがないとすれば、これはどうしてであろうか。この点について、節を改めて検討を加えよう。

#### 3. 中国の穀物禁輸と中朝食糧貿易

朝鮮の対中穀物輸入の減少は、中国側に原因がある。というのは、94年に、中国政府が華南地域の穀物逼迫による価格騰貴に対応して、穀物の輸出禁止に踏み切ったからである。穀物の逼迫は、華南地域の経済発展が人々の所得を向上させた結果、肉類の摂取量が増え、畜産業の振興とともに飼料穀物の需要が急増したためである。もちろん、外資食肉産業の中国進出も増大している。例えば、日本の食品企業は、輸出用焼き鳥の生産拠点をタイから中国・ベトナムにシフトさせているし、タイの地場資本も骨無し鶏肉の生産基地を中国に移転させているからである<sup>(11)</sup>。95年に入ると、中国は飼料用トウモロコシの対米輸入に加えて、インドから飼料用大豆ミールをも輸入し始めた<sup>(12)</sup>。中国は穀物輸出国から輸入国に転換したとみられている。とするなら、朝鮮は今後、中国からの穀物輸入を期待できなくなるのであろうか。



表4 朝鮮の対中国穀物貿易

単位：ト(金額1,000ドル)

	コメの輸出	トウモロコシの輸入	コメの輸入
1987	25,753( 2,630)	71,283( 5,332)	—
1988	29,662( 6,282)	123,675( 11,960)	—
1989	62,615(16,223)	123,478( 18,161)	—
1990	40,655( 7,544)	150,408( 14,459)	—
1991	16,015( 2,739)	165,323( 13,976)	—
1992	4,920( 772)	516,277( 64,566)	—
1993	240( 33)	1,056,560(121,165)	17,683( 3,211)
1994	1,420( 221)	688,285( 74,912)	3,936( 780)

出所：『中国対外経済貿易年鑑』（各年版）による。

表4に示されるように、朝鮮は、価格の高いコメを中国に輸出し、安価なトウモロコシを輸入してきた。しかし問題は、90年代に入ると、コメの輸出が激減するとともに、トウモロコシの輸入が急増するようになったことである。その原因は、いうまでもなく朝鮮の農業不振にある。元来農業に不向きな地形と気候であることに加えて、土壌も肥沃とはいえない。したがって、生産性を上げようとするれば化学肥料を多投せざるを得ず、結果として土壌疲弊をもたらしたといわれている。追い打ちをかけるように異常気象が多発して、朝鮮は厳しい食糧不足に見舞われるに至った。こうして遂に、93年には、本来輸出品であるコメまで輸入せざるを得なくなり、240ト(3.3万ドル)の対中輸出の一方で、1万7683ト(321万ドル)のコメが中国から輸入されたのである。いうまでもなく、トウモロコシの輸入も急増し、92年の倍、106万ト(1億2120万ドル)に達した。

環日本海経済研究所の推計によれば、93年の朝鮮の穀物需要量は食用に420万ト(1日当たり一般就業者600名、高齢者及び15歳未満の未就労者300名として算出)、飼料用94万ト、加工用33万ト、種子用12万ト、減耗分24万ト、計582万トである。これに対して、生産量(前年生産量)を427万トとみれば、不足分は155万トとなる。このうち、109万トは輸入で賄われ、差額46万トが備蓄や節約で充当されたという<sup>(13)</sup>。きわめて妥当な分析であると思われる。

94年11月に決定された中国の穀物輸出禁止措置は95年も続けられた。同推計では、95年の総需要量590万トから生産量413万トを減じた不足分は177万トとなる。ところで、朝鮮が韓国(6月、無償15万ト)と日本(7月、有償・無償各15万ト)からコメを調達したことは、まだ記憶に新しい。それに先だって、2月にタイからコメを30万ト、3月に米国からトウモロコシを15万ト輸入契約しているし、米国の慈善団体である国際宣明会からは穀物10万トの援助を受けている。これらを合計すると、95年の朝鮮の穀物輸入量は100万トに達する。これに、中国からの輸入7万ト(輸入金額655万ドルは94年の価格から推計するとトウモロコシ7万トに相当する)を加えても、70万トは絶対的に不足である。さらに水害による備蓄穀物の流失等を考慮に入れば、不足はさらに大きくなる。この不足についてはどのように解決したというのであろうか。

筆者の解釈を述べておこう。筆者には、友好国中国が朝鮮の窮状を目の当たりにしながら、朝鮮に対しても穀物禁輸措置を発動していることが解せない。別の形で食糧を提供しているのではないかと思われるのである。そこで、穀物輸出が激減した95年の中国の貿易統計から、対朝鮮輸出急増品目で、穀物の代替となる品目を探してみた。該当するものは「製粉」である。中国の対朝鮮製粉輸出は94年177万ドルに過ぎなかったが、95年は1961万ドルに11倍増している。

中国国境地域の貿易関係者からの聞き取り調査によれば、中国政府が禁輸措置を採っているのはトウモロコシのみだが、粉にすればトウモロコシも輸出可能になり、小麦粉とともに朝鮮に輸出されているという。トウモロコシを粉にすることで禁輸措置をクリアーし、小麦粉とともに朝鮮に輸出されているのであるが、量的には10万トンと推計され（94年の統計数値177万ドル・9816トンから95年の1961万ドルに相当する数量を推計した）、禁輸で激減した穀物を完全には代替できていない。

いま一つの代替措置は国境貿易である。節を改めて、この点に触れておこう。

#### 4. 国境貿易を通じた穀物貿易

中国は、国境線を挟んだ内外両地域の住民や企業が相互の補完関係を活かして行なう貿易取引を「辺境（国境）貿易」と称して、保護奨励している。この国境貿易は、①交易の場及び取引品目・金額が限定され、関税の減免措置がある「辺民互市」、②地方政府の認可のもとに、外国商人と民間取引として行われる「辺境民間貿易」ないし「辺境小額貿易」とから成り、東北地域では、黒竜江省がロシアのアムール州と、吉林省がロシアの沿海地方及び朝鮮の咸鏡北道と、遼寧省丹東市が朝鮮の平安北道新義州市と、各々国境貿易を展開している。

問題となる、中国と朝鮮との国境貿易の最近の状況を示しておく、表5の通りである。吉林省と咸鏡北道との国境貿易はバーター取引が中心であるから、収支はほぼ均衡しており取引規模も大きい。丹東市と新義州市との国境貿易は、朝鮮側が外貨で買い付ける取引が中心であるから、朝鮮側の大幅な赤字が特徴となっている。全体として、94年までは取引が急増している。その理由は、「改革開放」下で市場メカニズムを採り入れはじめた中国が、朝鮮との経済関係も「経済ベース」で行いたいと考えるようになり、朝鮮に、「友好価格でバーター取引」から「国際市場価格で外貨決済」を迫ったからである。92年から政府間協定貿易は「国際市場価格による外貨決済」が原則となったが、外貨事情の厳しい朝鮮としては、外貨の必要な政府間貿易は原油等の戦略物資の調達に限定し、他はバーター取引の可能な国境貿易を利用するという選別の途を採ることになる<sup>(14)</sup>。その結果、朝鮮の対中国国境貿易は急増したというわけである。ちなみに、93年の国境貿易額は前年比1.9倍の5億2726万ドル、中朝貿易総額（8億9964万ドル）の58.6%に達した。翌94年の国境貿易額は5億3175万ドルであったが、中朝貿易総額が6億2347万ドルに低下したために、国境貿易のシェアは85.3%に高まった。95年のシェアは65.8%である。いずれにしても、中朝貿易に占める国境貿易の比重は極めて高いのである。

さて、筆者は95年9月（集中豪雨禍の直後）と96年6月に、丹東市と吉林省の数ヵ所で国境貿

表5 中国・朝鮮国境貿易総括表

単位：万ドル

	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年
吉林省の輸出	4,844	10,065	22,960	n.a.	n.a.
吉林省の輸入	4,427	12,825	24,165	n.a.	n.a.
吉林省小計	9,272	22,890	47,126	45,500	26,000
丹東市の輸出	2,449	3,540	3,200	5,400(概数)	7,800
丹東市の輸入	718	780	2,400	2,300(概数)	2,400
丹東市小計	3,167	4,320	5,600	7,675	10,190
中国→朝鮮	7,293	13,605	26,160	n.a.	n.a.
朝鮮→中国	5,145	13,605	26,565	n.a.	n.a.
国境貿易合計	12,439	27,210	52,726	53,175	36,190
中朝貿易総額	61,045	69,265	89,964	62,374	54,979

出所：『中国海関統計』及び筆者の聞き取り調査。

易の聞き取り調査を行った。いずれの地域でも共通の回答は、集中豪雨禍以降、朝鮮向けの食糧輸出が増大したということであった。食糧の内容は小麦粉・トウモロコシ粉・雑穀粉であり、先に見た、95年の対朝鮮製粉輸出の急増を説明している。

ところで、国境貿易には、「辺民互市」と称する、国境地域住民の小額取引がある（前述の①）。この取引は、国境線から20キロ以内の特定地点に取引の場を設けて両国国境住民の自由な相互取引を認めるもので、1日・1人・1回につき1000人民元までの取引については非課税扱いとなる。この辺民互市が興味を引くのは、穀物、それも輸出禁止のはずのトウモロコシの朝鮮への輸出が黙認されているからである。吉林省での聞き取り調査によれば、非課税扱いになる1000人民元で、トウモロコシなら500キロが取引可能であり、木材や塩干魚等と交換されるのだという。1人500キロにしても、延べ2万回・人では1万トになる。

辺民互市取引がどの程度行われているのか、正確な数字は擱めていない。もちろん、貿易統計にも計上されていない。たまたま、筆者が調査した小さな町では、取引引きされた商品を搬送するために年間トラック500台が往来しており、取引規模は800万人民元（約1億円）に達するという。個々の取引は小額でも、全体としてはかなりの金額に達しよう。貿易統計には出てこない、こうした辺民互市取引が国境地域のあちこちで日々行われ、トウモロコシが朝鮮に輸出されているのである。

以上に見たように、中国は穀物禁輸という原則は保持しながらも、朝鮮には、製粉の形で、あるいはまた辺民互市取引を利用することによって、食糧を輸出しているのである。とはいえ、朝鮮の食糧危機が遠のいたわけではなく、厳しい現実には変わりはない。筆者の意図は、貿易統計の「穀物」の激減に目を奪われて朝鮮の穀物不足を算出するという単純な分析に警告を発したいだけである。

## 8 中・朝貿易から見た朝鮮経済

最近の新聞報道によれば、中国は朝鮮の窮状に鑑み、原油・コークス・食糧の有償援助に、91年に廃止した「友好価格による取引」を復活させたようだという<sup>(15)</sup>。事実だとすれば、中国は朝鮮の状況を危機的だと認識して本格的な支援に乗り出したと見る事が出来る。韓国と日本も、早急に本格的な対朝鮮経済援助に取り組むべきであろう。

### 5. 課題と展望

最後に、朝鮮経済の行方を展望して結びとしよう。

朝鮮経済の最大の問題は、食糧・農業問題を別とすれば、諸産業の基礎であり、輸出産業の主力である鉄鋼業の極度の不振である。この結果、最後の輸出品である労働力にますます依存せざるを得なくなっている。委託加工の比重の高い日本や韓国との貿易が急増しているのはその現れである。ちなみに、95年の対日貿易は前年比20.5%増の5億9464万ドルとなり、対中貿易を僅かながら凌駕して最大となったし、南北交易も承認ベースで3億1000万ドル（通関ベースで2億8700万ドル）に達し、対中貿易に次いで第3位となっている。対日貿易・南北交易ともに朝鮮側の大幅黒字である。しかし、原油・コークスといったエネルギーと食糧とは、友好価格で調達できる中国からの輸入に依存せざるを得ず、これからも輸入の対中国依存、輸出の対日本・韓国依存という方向は一層強まることであろう。朝鮮としては、対日・対韓委託加工の拡大に努めて外貨稼得を図り、不振を極める鉄鋼業の再建に努力することが緊要である。

食糧問題については、農業の生産性を高める以外に解決の途はない。中国もベトナムも生産請負制を導入して農民の労働意欲を高め、生産性を向上させたが、朝鮮の場合は、大規模化が生産性を高める途だと考えられてきた。金日成主席が生産請負制を全面否定したこともあり、農民は「協同農場」や「国营農場」に、いわば賃金労働者として組織されている。ところが、最近の新聞報道によれば、朝鮮は、分組と称される協同農場の数戸が国家上納分以外の残余の農産物を自由に販売できる制度を採り入れ始めたという<sup>(16)</sup>。そうだとすれば、朝鮮も、小集団単位ではあるが生産請負制を導入し始めたということになる。家庭で作った食料品を扱う自営の露店が認められるようになったとの報道もあり<sup>(17)</sup>、朝鮮経済も漸く改革開放の方向に歩み始めたようである。

### 注

- (1) 投資説明会で金日成総合大学金秀勇教授が報告した数値である（『朝日新聞』96年7月18日）。
- (2) 東アジア貿易研究会『東アジア経済情報』No.24。
- (3) 対外債務・GNPともに韓国統一院の推計値（『日本経済新聞』96年5月18日）。
- (4) 『日本経済新聞』96年7月17日。
- (5) JETRO『北朝鮮の経済と貿易の展望』。
- (6) 「朝鮮民主主義人民共和国のエネルギー需給の現況」（『ERINA REPORT』1995 VOL.8）。
- (7) 「朝鮮石炭事情」（『東アジア経済情報』No.27）。
- (8) 丹東での聞き取り調査で、ロシアが朝鮮との国境を閉鎖したとの情報を得た。

- (9) 詳しくは、拙稿「朝鮮の中国・ロシアとの国境貿易」(小川・木幡編著『環日本海経済・最前線』日本評論社、1995年)を参照されたい。
- (10) 大韓貿易振興公社によれば、94年の対中原油輸入量は91万トンに減少したというが(東アジア貿易研究会『東アジア経済情報』No.24)、これは誤りである。
- (11) 詳しくは、拙稿『『東アジア経済圏』の再編成とタイ』(小川雄平編『タイの工業化と社会の変容』九州大学出版会、1995年)を参照されたい。
- (12) 『日本経済新聞』95年11月10日及び11月23日。
- (13) 『ERINA REPORT』1995 Vol.7。
- (14) 詳しくは、拙稿「朝鮮経済と国境貿易」(『西南学院大学商学論集』42巻3・4合併号)を参照されたい。
- (15) 『日本経済新聞』96年7月13日。
- (16) 『日本経済新聞』96年6月24日及び7月9日。
- (17) 『朝日新聞』96年7月3日。

## **North Korea's Food Shortage and Her Trade with China**

Yuhei OGAWA

(Seinan Gakuin University)

Since 1990, the harvest of cereals as well as the economic performance of North Korea (the DPRK) has been so bad. Adding to them, the DPRK suffered from an unprecedented flood last year, so that her food shortage has become intensified.

Unfortunately, she has not imported so much cereals from China, a friendly nation of the DPRK, because that China has been short of corn since the end of 1994.

Glancing at the very small figure of cereals in China's customs statistics, most researchers used to guess that North Korea's food shortage become intensified so much. But I don't agree with them because of two proofs. One is that China doesn't export corn but does powder of corn to the DPRK, the other is that China exports corn to the DPRK making good use of the frontier trade.